

なぜなに やま・もり

山や森についてもっと知ろう!

森林の状態は野生動物の行動にも影響?

山形県には人の手が入らなくなり荒れてしまった里山が沢山あります。以前は適切に整備された森林が、人間が住む里地と野生動物が生息する奥山との間に広がり、人間と野生動物の生活圏をうまく分ける働きをしていました。しかし、それがなくなったことで、野生動物が人間の生活圏に以前より頻りに現れるようになりました。

1 以前は、人が住む里の裏山には、薪炭材や山菜、きのこ等を探ることにより適度に整備された里山が広がり、野生動物との生活圏をうまく分けていました。



2 人が里山を利用しなくなり、森林が荒れてしまいました。



3 野生動物にとっては、身を隠せる場所が増え、奥山から人間の生活圏まで出てきやすくなりました。



4 森林を適切に整備することで、林内が明るくなり、見通しも良くなります。森林が人里と奥山との緩衝帯(かんしょうたい)として機能し、人里まで現れる野生動物が少なくなります。



森林整備は野生動物の被害を減らすうえでも重要です

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、手入れの遅れた森林を整備しています。

企業だって 森づくり♪

公益社団法人山形県トラック協会 編



公益社団法人山形県トラック協会 会長 熊澤 貞二さん

トラックと森林って 関係ありますか?

国内運送の大半はトラックが担っており、皆さんの日常生活を支える縁の下の力持ちです。しかし、トラックはCO2の排出と切っても切れない関係にあるので、皆さんのイメージは必ずしも良くないのではないのでしょうか。

そこで私たちは、CO2を吸収してくれる森林と仲良くしていきたいと考え、平成17年から森づくり活動を始め、かれこれ18年目になります。

「年来の友人」みたいですね!

いいえ、まだまだです!膝より小さい苗木を植えて、森と呼べるようになるまで何年かかるのでしょうか。森林の成長について考え

たら、遠い未来を見据える視点が生まれました。活動を立ち上げる時「この活動は100年スパンで続ける」と会員には宣言しました。最初はどうか思われたか分かりませんが、今では活動が当たり前になり、参加者も多く集まります。自分が働く業界への環境負荷に対し、目を向けるきっかけになったのかなと思います。



会員とその家族での植栽作業

活動を始めた頃の状況は?

最初はカヤだらけの荒野原で、カヤの除去作業から始めました。それと駐車場作りも。会員は重機の操縦はお手の物ですから(笑)、

業界の強みを生かして作業しました。でも、最初は失敗もありました。なんだか苗木の育ちが悪いなあと思っていたら、地摺えのとき、表面の土を取りすぎて栄養が無くなったせいだったと後から

分り(涙)、工夫して、3年目くらいからやっと軌道に乗りました。今は定期的に職員で見に行き、苗木の成長をチェックしています。苗木の周りに草が茂ってくれば刈払機も使います。私も個人的に購入して現場で使っています。



広大な面積での森づくり活動。「トラックの森」はまだ拡大中です!

会長も作業するのですか!?

もちろんです!荒れたカヤ場が森に生まれ変わるのを長年見てきましたから、手をかけるのが楽しいのです。会員とその家族も参加してくれるのですが、参加した子どもが大きくなって親に

なった時、また子どもを連れてきてくれるような魅力的な場所にしていきたいと思います。



記念にパシャ☆楽しく活動しています。

次の世代へ引き継いでいくというんです。

森を次世代へ引き継いでいくのも大事ですが、同様に森づくりの後継者も協会で育てていかなければなりません。100年スパンで考えるなら、人材のバトンタッチをどのようにうまくやるかが、会長としての務めだと思っています。

公益社団法人山形県トラック協会では、youtubeの配信も行っています!是非ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=UKT4E3v9CVc>

★やまがた絆の森づくり推進事業★

企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。令和4年4月現在、37企業・団体、35箇所で開催中。